

2021年度 統括事業所万寿 事業報告・決算概要

(養護老人ホーム「万寿園」・軽費老人ホームA型「第三万寿園」)

養護老人ホーム万寿園と軽費老人ホーム第三万寿園は同一建物内にあることから、日常の事業運営は一体的に行っている。

1 利用実績等

(1) 養護老人ホーム万寿園

ア 在籍者率

- ・各月初日の年間在籍者率は93.1%であり前年度より6%以上減少し、年度末の欠員は18名であった。

イ 入所状況

- ・11名の入所者があった。うち、入院先や救護施設から帰来先が無いケースが1名。家族DVのケースが3名。在宅での独居継続が困難となるも、特養対象とはならないケースが4名であった。自宅からの強制退去や金銭的に生活が困窮してのケースが3名あり、セーフティネット的な役割を担った。緊急性が無い養護待機者は基本的に個室を希望されるため、全室二人部屋の万寿園に対しての紹介はほぼ無かった。
- ・入所対象者ではなかったが、緊急一時保護者を短期入所で受け入れ、独居生活の基盤が整うまでの支援を行った。

ウ 退所状況

- ・年間退所者21名のなか死亡14名、長期入院2名、介護保険施設入所3名であった。要介護状態が重くなっていく利用者に対し介護保険サービスも活用しながら、可能な限り現状の施設生活を継続できるよう支援し、困難な場合は丁寧な退所支援を行い、利用者、家族及び実施機関との信頼関係の構築に努めている。

エ 要介護認定者

- ・全体の認定者率は前年度の38%から減少し35%であった。また、要介護度別の割合について要支援1・2の割合は変化がなく、要介護1・2の割合は71.7%から56.3%に減少し、要介護3・4・5の割合は24.5%から39.6%に増加した。重度者の増加は、年度末時点での入院者が13名であることも関連している。

オ 介護サービス利用状況

- ・ニーズとして入浴介助が必要な利用者が多く、デイサービスやヘルパーによる介助を受けている。介護サービスの利用総量としては若干減っている。

カ 課題

- ・養護利用者には個室希望が多く、二人部屋の万寿園は入所者の確保に苦戦している。しかし、逆に緩やかな見守りや声掛けがしやすい環境であり、認知症や精神疾患を受け入れやすい環境と言える。
- ・今後も認知症や精神疾患の利用者への理解を深め、対応のスキルアップが必要である。また、柔軟な入院対応も含めた精神科、多摩あおば病院との連携確保は引き続き非常に重要である。
- ・大規模改修後の改善された生活環境や、様々な困難ケースの受け入れ、見学や入所時の送迎対応など、柔軟な対応を各市区町村にPRしていく。

(2) 軽費老人ホーム第三万寿園

ア 在籍者率

- ・待機者は年間を通じて20～30名程度ある。退所があった場合には速やかな入所を行うことで、前年度に引き続き99.8%の高い在籍者率となった。
- 稼働率100%の目標に対しては、予測が出来ない月末退所への対応が課題である。

イ 入所状況

- ・今年度は6名の入所であった。入所事由の傾向としてはADLの低下、軽度認知症や精神疾患などによる在宅での独居継続困難が半数を占める。よって入所直後から介護サービスの利用を開始する必要がある方が多い。

ウ 退所状況

- ・5名が退所。内訳は死亡2名、特養等入所1名、長期入院2名。

エ 要介護認定者

- ・全体の認定者率は前年度と変わらず54%。退所者の多くは介護保険利用者が大半であった。
- ・自立前提の施設ながら、要介護1が18名、要介護2が2名となっている。

オ 介護サービス利用状況

- ・ヘルパーによる家事支援が一番多く、次いで通所介護、ヘルパーによる入浴介助、福祉用具貸与と続き、サービス利用の総量が若干増加している。

カ 課題

- ・軽度認知症や精神疾患がある利用者への対応が増えている。
- ・認知症や精神疾患の利用者に対して利用者間の理解や家族の協力がさらに必要になっている。
- ・身元引受人を立てられない方や身元引受人が兄弟姉妹などの高齢者である方の入所申込みに対して、社協の権利擁護推進センターや成年後見制度、後見NPO等の資源活用を推進していく必要がある。
- ・現在の待機者の多くは心身機能の低下、身元引受人確保が困難などの課題を抱えている。このため、待機者の状況を定期的に把握し、スムーズな入所のための準備が必要である。

2 苦情処理

ア 苦情処理報告 10件

食事提供に関する苦情3件、職員の対応に関する苦情7件、

イ 苦情委員会への報告 0件

早急に報告すべき苦情等は発生しておらず、毎年行う「苦情解決第三者委員と苦情解決責任者との懇談会」で年度内に発生した苦情の報告と委員の意見を伺っている。

3 事故・ヒヤリハットの状況

1) 事故報告(重大事故) 年間30件

- ・概要 転倒による怪我17件(骨折16件*うち帰園不能2件・転倒による裂傷1件)
浴室での急変・急死2件、誤嚥1件、誤薬2件、対応忘れ1件、
受診対応時のミス2件 物損2件 紛失3件

2) 軽微事故報告 年間169件

- ・概要 転倒 125件、外傷2件、紛失1件、誤嚥2件、
誤薬・配薬ミス2件 無断離脱9件、
対応(忘れ18件、ミス7件)

3) ヒヤリハット報告 年間165件

- ・概要 転倒(怪我なし)127件、利用者に関するもの21件 職員の対応に関するもの17件

4. 福祉サービ第三者評価受審

令和4年 1月 利用者調査実施

評価機関 特定非営利活動法人 にこにこ福祉の会

「利用者に対する調査」のみ行う。以下、評価内容。

施設に対する総合的満足度は、「大変満足」「満足」を合わせて「万寿園利用者」51.1%「第三万寿園利用者」78.2%と第三万寿園は高い評価が示され、万寿園は約半数と低めであった。

万寿園・第三万寿園ともに満足度が高い項目は、「病気やけがをしたときの対応」「利用者のプライバシー」が一致し、万寿園は加えて「入浴時間の設定」、第三万寿園は加えて「施設内の清掃・整理整頓」に対し評価が高かった。一方、満足度が両施設ともに低い項目で「利用者同士のトラブルの対応」については、利用者の気持ちをくみ取り、迅速に対応し、利用者の納得に近づけるように心掛けていく。また、第三万寿園の「個別計画作成時に状況や要望を聞かれているか」については、自立度が高い利用者も多く、要望を聞いてもらいたいという意見に応じていく。

II 事業課題への取り組み

1 利用者の個別状況に則した支援の実践と支援内容の質の向上

	項目	実施内容
1	利用者の意思を尊重した、質の高いケアの実践	<p>【評価】： A</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援計画策定において利用者の生活の希望を聞き、各職種が意見をだし支援計画カンファレンスで協議し支援計画に反映させた。 ケース会議、ケースカンファレンス及びフロアミーティングで支援内容を評価し見直ししながら、会議録や「職員掲示板」を活用し、情報の共有化を図ることができた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援計画の目標を実現するため、PDCAサイクルによる支援の検証と改善。 一貫した支援のために継続的な情報の共有と利用者の状態変化に合わせたタイムリーな見直し。 職員の対人援助技術の向上。
2	利用者本位の生活支援の実践	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスについては社会情勢を鑑みながら、集団生活であるがための規制内容を常に見直し、実施可能な催しや活動を実施した。 利用者が車いすの使用が必要な状況になることがあるため、1か所を車いす使用可能な流しに改修した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも実施可能な催しの範囲や規模を安全確保しながら広げていく 利用者個別の要望に応える支援（個別支援） 利用者担当職員が利用者の要望を様々な方法でくみ取り、対応すべきことを把握する。
3	安全対策の強化及び事故防止の徹底	<p>【評価】： A</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイルメーカーによる事故報告書を、支援記録から自動でコピーし作成できるようにしたことで、効率良く作成ができた。 事故苦情対策委員会で事故ヒヤリ報告の作成と周知する仕組みを作ったことで、より対策への対応も速やかに行えることができた。 報告書を最後まで完成させ、再発防止対策を実施出来ていることで、職員が報告書作成の効果を感じている。それにより報告件数も伸びており、2020年度の221件から2021年度は364件となり1.6倍に増加した。 離設事故対策のため、2022年1月に養護・軽費の玄関にセンサーを設置した。端末を持った利用者が玄関を出る時、センサーが反応し事務

		<p>所にある受信機から警報がなることで、施設から出ていく利用者を保護できている。高い確率で離設を未然に防ぐことが出来るようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策により 2020 年 12 月から休止していたグループリハビリを転倒事故防止対策のため 2021 年 8 月より再開した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事故ヒヤリの迅速な作成と対策の周知はできつつあるが、再発防止対策の速やかな対応とその効果や継続性を委員会で検証していく。
4	施設運営へ利用者意向の反映促進	<p>【評価】：B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> フロア別懇談会及び利用者懇談会は新型コロナウイルス感染対策のため、今年度も全体懇談会は実施しなかったが、頻回に階毎に連絡事項を周知する機会を作り、利用者からの意見を聞いた。 福祉サービス第三者評価の利用者調査を受審した。 利用者に食事に関する意向調査を行った。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者が集合する懇談会に代わって利用者意向をくみ取るため、フロア別懇談会や利用者意向調査（アンケート）を実施する。
5	「健康の維持」「食の楽しさ」に向けた取り組み	<p>【評価】：A</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事の質の向上のためセントラルキッチンとの密接な連携を目指しているが、料理の評価や出来上がり状態の希望の伝達に留まっている。 納品時の数量間違いによる作業遅延改善のため、2021 年度末で既存業者を 1 社契約終了した。また食材の種類増加と食材費の価格の見直しを行うため、2022 年度からの新規業者を 1 社契約した。 食事サービス委員会を中心に「祝い膳提供後のアンケート実施」や「イベント食（バイキング、フロア別献立、駅弁）」を企画し実施した。 昨年度好評だったフロア別出来立て料理の提供を食事サービス委員会が中心となって検討し、「揚げたてトンカツ」を提供した。ソースを複数用意し、作りたての料理をいつもと違う味を提供することができた。利用者から普段の献立より熱々で美味しいと好評価であった。 ADL に合わせて嚥下機能低下に対応するトロミ食や水分量を変更した食事の提供やタンパク制限、塩分制限、カリウム制限に対応することで個々の利用者の状況や希望に沿った「食」を提供することができた。 セントラルキッチンを中心とした食事提供の利点を活かし、嚥下が低下している利用者に対し、第二万寿園で提供しているソフト食を提供した。 節句料理（端午、七夕、正月、節分、ひな祭り）、敬老祝い膳、母の日・父の日の料理、クリスマス食、年越しそばなど、日本の季節や伝統的な行事に合わせた料理を提供した。 新型コロナウイルス感染症対応により昨年度は実施出来なかった「バイキング」を行った。会場前での手洗いの徹底、テーブル数や配置の制限、テーブルにパーテーションを設置する対応を行い実施した。またフロアの ADL に合わせてバイキングのスタイルを増やした（今回は 2 パターン）。 お楽しみ食の代替を食事サービス委員会で検討し、「駅弁」を提供した。事前に 4 種類から利用者を選択してもらい、昼食で提供した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に対応し、フロア毎に出来立て料理を楽しむ機会の拡充や、少人数で食事を楽しむことが出来る方法を検討する。

6	医療機関との連携協力による健康維持の推進	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 嘱託医及び、他医療機関と情報交換を密に行い、入退院判断及び受診先との連携に努め、疾患の早期発見・早期治療を目指した。 ・ 園での新型コロナウイルス感染者発生時には、外部の医療機関の受診は不可であったため、各病院へ電話診察による処方薬を受けられるよう対応した。 ・ 夜間緊急受診に対応するための利用者の個人ファイルの更新はできたが、緊急時受診のマニュアル作成はできなかった。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急受診時の対応マニュアル作成に早急に取り組む。 ・ 熱発者の受診は、対応してくれる医療機関を探すのに苦労した。今後は発熱外来の受け入れ可能な医療機関をリスト化し、利用者への受診対応をスムーズに行えるようにする。
---	----------------------	---

2 地域とともに支え合う施設づくり

項目		実施内容
1	地域支援・地域交流の促進	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症により、近隣の学校・保育園との交流や地域交流納涼大会、いきいき健康講座、体操教室、日曜レストラン、また地域のイベントへの利用者参加、及び近隣施設との利用者交流も全て中止した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域支援・地域交流を再開させることを統括事業所第二万寿とともに検討する。
2	利用者ニーズに応じた地域資源の活用	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣のスーパーが閉店したことで、万寿園利用者や地域住民の買い物困難者から買い物機会確保のニーズがあった。地域包括支援センターと連携し、敷地内にイオン移動販売車を誘致し、買い物支援を開始した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ With コロナ下の状況でも利用者の活動を支援してもらうため、ボランティアの受け入れ体制の検討をする。

3 健康管理・感染症対策への取り組み

項目		実施内容
1	感染症予防等	<p>【評価】： A</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年2月に介護保険事業所のヘルパー入浴介助でヘルパーから新型コロナに感染したと思われる利用者が1名発生した。その他、該当ヘルパーの介助を受けた利用者で濃厚接触と特定した10名の隔離を行った。嘱託医の田代 Dr. へ適宜報告し指導を受けながら、検査・隔離の判断基準や陽性者の対応について整理し職員に周知した。今回、施設内のコロナ感染発症者は1名にとどまり、感染拡大を防ぐことができた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・「新型コロナウイルスによる全国での感染が拡大している状況の中、「厚生労働省」「東京都」などからの情報をもとに、日々変化する状況に対応すべき課題について職員への周知と対応に努めている。 ・2022年1月に「新型コロナウイルス」3回目のワクチン接種を安全に行えた。(利用者・職員) 接種後の熱発者の対応も万全であった。 ・感染者発症時に効率よく使用できるよう、隔離対応で使用する備品や衛生品を平時からカゴにまとめておくよう整備した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は4回目のワクチン接種が予定されている為、その際にも安全に遂行できるようにする。 ・非常勤職員も含めた感染症予防研修の継続と、感染症発生時における拡大防止等の的確な対応が必要である。感染発症時及び状況の変化に全職員が一貫性のある対応を行うため「感染症対策会議」を適宜開催する。 ・居室をはじめ全館の換気やその他の感染対策について1日2回の全館放送で、感染症対策及び利用者へ感染症の情報提供を行う。 ・普段から「新型コロナウイルス」への新しい情報収集を行い、対応及び事業継続を考えた準備を今後も継続していく。
2	利用者の健康管理	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防のため、施設全体で毎日利用者の検温を実施した。 ・利用者の健診結果を受け嘱託医の指示のもと、利用者に対する早期対応を心掛けた。 ・歯科検診及び口腔ケア勉強会は、新型コロナウイルスの為行えなかった。 ・PTによる週1回日曜日のリハビリは感染対策を考えた実施方法を検討し再開した。 ・肺炎球菌ワクチン対象者の接種を地域の病院で実施した。(毎年15名ほど) ・定期受診や緊急受診に関して、病院との連携をはかり、受診時には安全に対応できた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の健康診断は、感染対策をしっかりと行ったうえで、年2回必ず実施する。 ・利用者の歯科検診は感染対策を取り入れ、次年度は実施する。 ・コロナ禍で様々な活動が中止延期されるなかで、利用者の心身機能の低下が起こっている。その為感染対策を考えたくて活動を再開し、楽しみのある生活が戻るように考えていく。
3	医療機関等との連携	<p>【評価】： A</p> <p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関としての協定を継続する。(緑風荘病院、多摩あおば病院、富士見歯科) ・地域の他の医療機関との連携による受診・入院等(長期療養含む)について看護・相談が積極的に取り組んだ。(東大和病院、東大和セントラルクリニック、多摩北部医療センター、久米川病院、国分寺病院、一橋病院、新山の手病院、白十字病院、緑成会病院、片岡眼科、徳島眼科など) <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々外部での定期通院が困難になった利用者の増加で、施設内における嘱託医受診の増加が顕著である。今後嘱託医との連携をさらに深めていく必要がある。 <p>また療養病床病院、リハビリ病院など新たな病院の開拓・関係の構築と連携を目指す。</p>

4 施設経営基盤の確立・安全管理への取り組み

項目	実施内容
1 養護 稼働率の 維持	<p>【評価】： C</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所利用者の生活支援を丁寧に行い、各実施機関から措置先として望ましいと評価されるよう連携し、関係を強化している。 ・緊急入所の相談や対応に苦慮すると思われるケースも、可能な限り受け入れている。 ・各実施機関との連絡の際には空所状況等を伝え、新しく作製したPRチラシを全措置機関へ郵送した。 ・入所時の移動手段などの相談には、個別の事情も考慮し支援している。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人部屋などハード面のデメリットを補うことができる施設の強みや魅力を考え、より一層の磨きをかけて発信する。 ・認知症や精神疾患への理解を深め、対応のスキルアップを図る。
2 事業運営の合理化、効率化に向けた現状の見直しと経費削減の推進	<p>【評価】： A</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の利用者対応が増えている現状に合わせ、2名の宿直体制から、1名宿直、1名夜勤の体制へ、移行を開始した。 ・引き続き消耗品の購入等、比較検討しながら安価な商品に変更していくよう精査してきた。 ・退職者の補充が出来ない分人件費が前年比低下している。業務手順等の見直しや係の業務を超えた協力体制で補った。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜勤を毎日配置できるよう日勤帯の職員配置や夜勤専従職員を整え、今後は夜勤体制加算取得を目指す。 ・消耗品など物品の購入から施設管理費などすべての経費に対し留意し、全職員が無駄のないよう経費削減に取り組む。

5 安全（災害）管理

危機管理体制の強化	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿直する職員を対象に夜間を想定した消防訓練を実施した。 ・今年度は、地震が多く発生し、その時の初動作対応が細かな点で上手くいっていない点もあり、震災時の初行動について見直しを行った。（BCP業務継続、安否確認メール、災害時使用携帯設置） <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模自然災害発生時における業務継続計画（BCP）の施設の実態にあった計画への見直し及び新型コロナウイルス感染症等、発生等に対する計画の見直し。 ・感染症対策マニュアルの見直し ・施設内の危険個所の見回り点検の定期的実施及び転倒の恐れがある収納庫の固定 ・非常食及び帰宅困難者用非常食の入替購入
-----------	--

6 コンプライアンスの推進

	<p>コンプライアンスの推進への取り組み</p>	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者から出た苦情要望に対し報告書を作成し組織的に取り組んできた。職員の利用者に対する対応について、法人理念や社会規範に沿った支援ができていないか振り返り見直す機会となっている。 ・今年度事業所内で職員が講師となりコンプライアンス研修を行った。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に関して、法令に定められている基準や社会的な規範・ルールを理解し、施設に対する信頼を損なうことのないよう、行動指針に基づく点検や啓発を強化する。 ・利用者・施設の財産（金銭）を守るため、決まった手順・ルールを守るという基本を遵守するよう以下の取り組みを行う。 ・新人職員や有期契約職員に対する法人理念に則った行動への啓発。 ・毎年行っている個人セルフチェックの様式を見直ししながら、定期的に実施する。（組織、個人） ・職員への個別指導 ・全職員に対するコンプライアンス研修の実施継続（3月）
--	--------------------------	--

7 職員スキルの向上等

	項目	実施内容
1	内部・外部研修	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ研修を取り入れ、非常勤職員にも研修の機会を拡充した。 ・研修を受けた後、業務に生かせる点を振り返ったことで、研修の効果を把握することができた。 ・外部の研修には感染症感染のリスクを配慮し参加は見合わせたが、オンラインの研修には参加した。 ・非常勤も含む全職員に実施したアンケートにより、学びたい・興味のある研修を把握した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで把握した希望を取り入れ、外部の研修受講等にも反映させる ・施設内の研修は研修委員会で、年間の研修を計画的に行う。 ・引き続きビデオ研修を取り入れ、非常勤職員への研修も充実させる。 ・感染症予防のため、オンライン研修に重点を置き実施する。

Ⅲ 2021年度万寿園・第三万寿園拠点区分決算概要

別紙のとおり

2021年度 万寿園拠点区分決算概要

(1) 事業活動計算書(概要)

(単位:千円)

	当年度 決算	前年度 決算	増減
サービス活動収益 計	313,193	342,612	△29,419
老人福祉事業収益	313,168	339,439	△26,271
その他	25	3,172	△3,147
サービス活動費用 計	295,326	307,638	△12,311
人件費支出	173,005	178,840	△5,835
事業費支出	86,618	88,924	△2,305
事務費支出	21,645	21,798	△153
減価償却費	22,221	34,081	△11,860
国庫補助金等特別積立金取崩額	△8,162	△16,005	7,843
			0
			0
サービス活動増減差額	17,867	34,974	△17,107
サービス活動外収益 計	401	468	△67
サービス活動外費用 計	598	575	23
サービス活動外増減差額	△197	△107	△90
経常増減差額	17,670	34,867	△17,197
特別収益 計	0	954	△954
施設整備等補助金収入	0	954	△954
その他	0	0	0
特別費用 計	6,400	55,354	△48,954
固定資産売却損・処分損	0	0	0
国庫補助金特別積取崩額	0	0	0
国庫補助金等特別積立金積立額	0	954	△954
拠点区分間繰入金費用	6,400	54,400	△48,000
その他	0	0	0
特別増減差額	△6,400	△54,400	48,000
当期活動増減差額	11,270	△19,533	30,803
前期繰越活動増減差額	51,685	67,357	△15,673
当期末繰越活動増減差額	62,954	47,825	15,130
その他の積立金取崩額	0	48,000	△48,000
その他の積立金積立額	16,000	44,140	△28,140
次期繰越活動増減差額	46,954	51,685	△4,730

次期繰越活動増減差額
年間サービス活動費用の約

1.9 カ月分

貸借対照表 (概要)

(単位:千円)

	当年度末	前年度末	増減
流動資産	107,909	141,537	△33,629
現金預金	104,289	135,294	△31,005
事業未収金	3,581	6,204	△2,623
前払費用	39	39	0
固定資産	483,064	486,072	△3,008
基本財産 建物	182,730	201,699	△18,969
構築物	168	219	△52
車輛運搬具	229	630	△401
器具及び備品	4,197	3,820	377
有形リース資産	0	0	0
ソフトウェア	382	554	△173
退職給付引当資産	5,600	5,352	248
人件費積立資産	68,785	68,785	0
施設整備等積立資産	220,915	204,915	16,000
長期前払費用	58	97	△39
資産の部合計	590,973	627,610	△36,637
流動負債	32,168	72,161	△39,992
事業未払金・その他の未払金	15,180	55,950	△40,770
1年以内返済予定リース債務	0	0	0
未払費用	6,126	6,423	△298
預り金	1,436	1,000	436
職員預り金	278	257	21
賞与引当金	9,149	8,531	618
固定負債	5,600	5,352	248
リース債務	0	0	0
退職給付引当金	5,600	5,352	248
負債の部合計	37,769	77,513	△39,744
基本金	134,063	134,063	0
国庫補助金等特別積立金	82,487	90,649	△8,162
その他の積立金	289,700	273,700	16,000
次期繰越活動増減差額	46,954	51,685	△4,730
(うち当期活動増減差額)	11,270	△19,533	30,803
純資産の部合計	553,204	550,097	3,107
負債及び純資産の部合計	590,973	627,610	△36,637

2021年度末積立資産残高 (退職給付引当資産を除く)

人件費積立資産	68,785
施設整備等積立資産	220,915

2021年度 第三万寿園拠点区分決算概要

(1) 事業活動計算書(概要)

(単位:千円)

	当年度 決算	前年度 決算	増減
サービス活動収益 計	136,728	136,972	△244
老人福祉事業収益	135,900	136,972	△1,071
その他	827	0	827
サービス活動費用 計	128,618	137,175	△8,557
人件費支出	88,730	97,580	△8,850
事業費支出	25,361	24,184	1,177
事務費支出	9,201	8,315	885
減価償却費	6,272	11,406	△5,134
国庫補助金等特別積立金取崩額	△945	△4,311	3,366
			0
			0
サービス活動増減差額	8,109	△203	8,313
サービス活動外収益 計	186	17	169
サービス活動外費用 計	199	191	8
サービス活動外増減差額	△13	△174	161
経常増減差額	8,096	△378	8,474

特別収益 計	0	22,318	△22,318
施設整備等補助金収益	0	318	△318
拠点区分間繰入金収益	0	22,000	△22,000
その他	0	0	0
特別費用 計	2,500	2,818	△318
固定資産売却損・処分損	0	0	0
拠点区分間繰入金費用	2,500	2,500	0
その他	0	318	△318
特別増減差額	△2,500	19,500	△22,000

当期活動増減差額	5,596	19,122	△13,526
前期繰越活動増減差額	6,306	12,867	△6,561
当期末繰越活動増減差額	11,902	31,989	△20,087
その他の積立金取崩額	0	0	0
その他の積立金積立額	8,988	25,683	△16,695
次期繰越活動増減差額	2,914	6,306	△3,392

貸借対照表 (概要)

(単位:千円)

	当年度末	前年度末	増減
流動資産	30,867	27,362	3,504
現金預金	28,718	4,887	23,831
事業未収金・未収金	2,132	22,459	△20,327
立替金・前払費用	17	17	0
固定資産	153,076	153,787	△711
基本財産 建物	60,834	66,867	△6,033
構築物	56	73	△17
器具及び備品	1,196	824	372
建設仮勘定	0	0	0
有形リース資産	0	0	0
ソフトウェア	82	118	△36
退職給付引当資産	6,454	10,423	△3,969
人件費積立資産	23,280	23,280	0
施設整備等積立資産	61,148	52,160	8,988
長期前払費用	25	41	△16
資産の部合計	183,942	181,149	2,793
流動負債	14,091	11,980	2,111
事業未払金・その他の未払金	7,209	3,675	3,534
1年以内返済予定リース債務	0	0	0
未払費用	3,455	3,411	44
預り金	0	0	0
職員預り金	141	215	△74
賞与引当金	3,286	4,680	△1,394
固定負債	6,454	10,423	△3,969
リース債務	0	0	0
退職給付引当金	6,454	10,423	△3,969
負債の部合計	20,545	22,404	△1,858
基本金	57,456	57,456	0
国庫補助金等特別積立金	18,599	19,544	△945
その他の積立金	84,428	75,440	8,988
次期繰越活動増減差額	2,914	6,306	△3,392
(うち当期活動増減差額)	5,596	19,122	△13,526
純資産の部合計	163,397	158,745	4,652
負債及び純資産の部合計	183,942	181,149	2,793

2021年度末積立資産残高 (退職給付引当資産を除く)

人件費積立資産	23,280
施設整備等積立資産	61,148